

History of Sakudory

マンガでわかる
世界初!! 21世紀の
ペストコントロール

日本サクドリー
「日本サクドリーの歴史」

日本サクドリーの歴史
から見る
21世紀のペストコントロール

作：井上輝美
画：都あきこ
二部：元厚生省 辻 泰弘
監修：都あきこ
推奨：元参議院 予算委員長 石井 一

日本一の
サクセスドリーム
株式会社
日本サクドリーの
軌跡(奇跡)

16(2004)年
日本サクドリー製、
ヒーター付ドライ害虫駆除機
「ラックメンター」正式登場
労働省承認、特許取得
(生労審省承認取得時を除いては)

清潔環境では
もう殺虫剤は
使えない

無色、透明、
「ハイテク方法」を用いた
「システム管理」の幕開け!!

常にお客様側の害虫駆除現場へ、
安価と効率優先の見地へ、
日本サクドリーが
兵庫として「ブランチ」を
作り出したのです。ダメージ

この
が21世紀の
です。



約束の場所へ。



企業の発展は目的ではなく、社会貢献に至る手段です。

先進国の国家衛生を築く!!



お問い合わせ・お申し込みは…

全国PCR事業会
(ペスト・コントロール・レンタル事業会)

我らの誓い
良心の仕事に徹する!!

本書は、2015年7月に幻冬舎ルネッサンスより発売された『世界初!! 21世紀のペストコントロール』「日本一のサクセスドリーム物語」1部1章を引用したものであり、全篇ご希望の際はアマゾン等、主要ネット書店でお求めください。



昭和37(1962)年 民間害虫駆除業(PCO)の始まり

作業者の多くは
ベストコントロールに関する
知識も理論も持たず
ただ殺虫剤を水で希釈して
ジャブジャブ撒くだけの
慣習化されたものでした

この年
行政指導型から
個人の責任において
実施されるようになり
民間害虫駆除業(PCO)の
始まりとなりました

昭和43(1968)年11月 PCO協会の発足

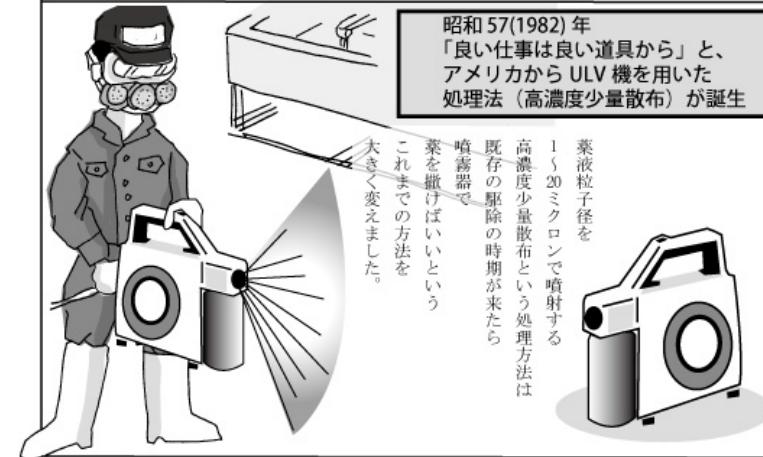
しかし
都市化の進行と共に
その慣習化された
「撒く」方法は
許されなくなりました

昭和45(1970)年から 駆除対象がゴキブリに変わる

昭和39(1964)年
東京オリンピック開催
東海道新幹線(東京ー新大阪)の全通
続く昭和40(1965)年名神高速道路の全通
急速な高度経済成長により
人の日常生活の快適さは
ゴキブリに必要な
温度とエサを与え
ゴキブリの拡張にも連携し
特に人間と共生する
チャバネゴキブリの
増殖ともなったのです



20世紀での飛躍的進化の処理方法



【PCO 機器・駆除効果の進化】

参考までに、駆除効果を上げる処理方法及び、環境配慮の進化と
して、薬剤分子の粒子を小さくしていく処理方法イコール機器の
進化となりました

ガス	非液化性・乾燥煙霧	ULV	ミスト	噴霧	処理法
1 以下	25 以下	1~20	50~100	100~400	粒子径 (μ)
ポンベ	煙霧機	ULV 機	ミスト機	噴霧器	機器名

そして、次にくる駆除法が
画期的だつたのです！

どんどん薬剤分子の直径（粒子形）が小さくなる





* ファン付殺虫機が正式に登場

都市型環境において
薬剤汚染につながる水(希釀)を使用する事のない蒸散処理法

タイマー設定により
無人の夜間に稼働し、
蒸散された薬で、継続的に
ゴキブリを駆除し続けるという
画期的なものでした

平成 7(1995) 年～平成 8(1996) 年
蒸散機用殺虫プレートを用いて
無色、透明のドライ(乾燥状態)処理方法による
ファン付殺虫機(殺虫ロボット)が登場



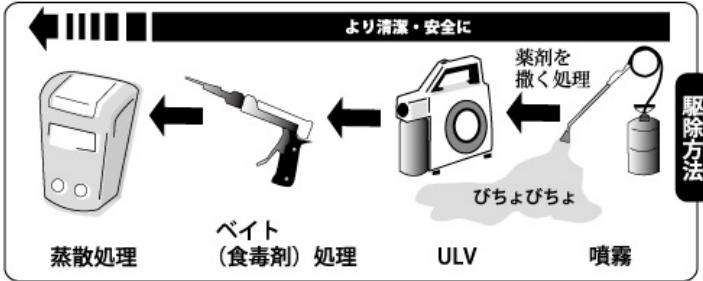
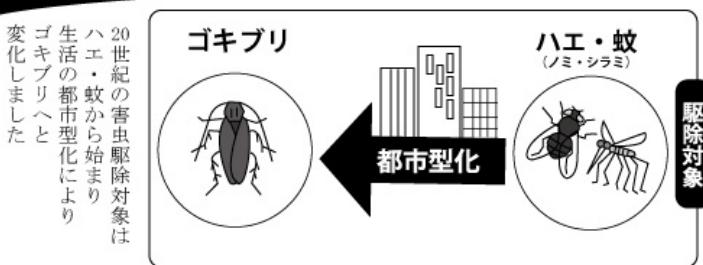
昭和 63(1988) 年頃に、知識も理論もなく
蒸散機が氾濫した時代が終結

ただ当時の各社ファン付殺虫機は、
殺虫プレートをファンで
拡散させるだけのものであり、
設置した飲食施設等の
室内温度に蒸散力(効果)が左右され、
それを補う大型機も登場しましたが、
設置場所の確保や
プレートコスト高と
課題の多い登場ではありました

また、この機械を扱う者は
所定の教育訓練を受けた
有資格者でなければ
ならないと義務づけ
されました



20世紀の害虫駆除統括





真のドライ害虫駆除機の完成

その安定技術により
使用する殺虫ブレートの
固定化に成功し
コスト面においても完成されたのです

外部温度に左右されない
安定した効果を実現



この効果とコストと機器の軽量化の完成により
従来の「ファン付殺虫機」とは別ものの
真の「ドライ害虫駆除機」が21世紀に登場したのです

※〔注〕ブラックメンターは突然に登場したのではなく、
ステンレス機から始まり、歳月をかけ、
改善、進化を繰り返した12台目の機器です。

機器的管理システムの幕開け

対ゴキブリの決定打としては
その完成されたドライ駆除機に
依存することなく
いち「ハード」と位置づけし
対象物件の難易度により
「ソフト」という
人的サポートを完備して
4週間に一度の効果判定に基づき
処方箋管理をする
「メンターシステム」をもつて
「ゴキブリゼロ環境維持」を
完成させたことです



メンターシステムとは



世界初の PCR(ペスト・コントロール・レンタル) とは

PCO(ペスト・コントロール・オペレーター)とPCR(ペスト・コントロール・レンタル)の違い

害虫 駆除
Pest **C**ontrol
ペスト コントロール

Pest **C**ontrol
ペスト コントロール

人的作業管理
Operator
オペレーター

機器的システム管理
Rental
レンタル

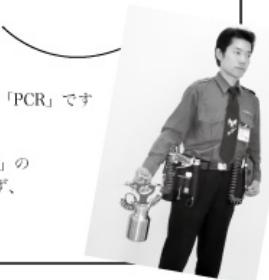


世界で初めて、ペストコントロールをシステムレンタル化したのが「PCR」です
PCRの「R」とは、衛生の継続価値の「R」なのです

現在の PCR 参入企業を見渡しても、従来の殺虫剤を「撒く」「残す」の
「固定概念」を持つ PCO からの参入は稀であり、「固定概念」を持たず、
真の環境衛生に取り組むレンタル業界からの参入が 80% です
「『固定概念』をぶっ壊す!!」が PCR の始まりなのです



PCO は人に依存する業務なので
サービス(質)にバラツキがあり
処理頻度においても限界があります
PCR では、それら問題を払拭した
機器を用いたシステム管理で
安定かつ処理頻度問題を解決しました







21世紀のpestコントロールの方向性



総 括 !!

21世紀の殺虫剤の 安全性のあり方

効果と安全性は反比例する

原則、毒をもって毒を制するのが「薬」であり、身近な風邪薬も含めて「安全な薬」というものは存在しません。虫を殺す殺虫剤においては、効果と安全性は反比例するものであり、安全イコール効果は期待できないのです。その原理原則を無視した害虫対策商品の、テレビマーケティングに見る安全と効果は、誇大広告として消費者庁からも指摘、指導を受ける事となりました。

原体規制による害虫の時代回帰

20世紀の近代化と共に薬剤汚染及び、環境に優しいと言う謎い文句の氾濫から、薬の原体だけに着目をして、効果ある有機リン系製剤から、原体の安全性を謳った合成ビレスロイドの時代を迎えました。結果、今日において過去の撲滅種であるトコジラミやハエ・蚊の大量発生と時代回帰を迎ってしまったのです。時代回帰した社会問題の「トコジラミ」対策は、有機リン系製剤のドライ駆除方式しか術はないと確信しています。

薬の原体判断から使用技術による安全性への変革

特に、DDVP(低毒性有機リン系)、プロボクスル(カーバメート系)という必ず未来の救世主となる有能な原体があります。

近未来に必ず襲ってくる外来害虫や熱帯ウィルスの媒介虫に備え、原体名だけで従来のモノサシや固定概念だけで判断できないのです。いち例として、海外の DDVP 製品は有効成分含有率が 50% で出回っていて

この上なく危ない状態だと思います。

それに対して日本製品の含有率は 5% 以下であり、用法も的確化されています。世界で一番厳しいと言われる日本の厚生労働省の優秀さや信頼性が如実に表れているのです。

その上、21世紀のベストコントロールとして、液状での直接噴霧や残留噴霧をする事なくプレート化(粒散化)する事によるドライ駆除システムを用いれば何十倍も安全であり、精密機器との併用と、用法で安全性を担保してしまえば既存の問題点は全て払拭してしまうのです。

物流においても、一般薬店ルートから外し、プロ仕様限定にする事によりリスク無く次世代の衛生を守れます。

結 論

「有機リン系製剤は、使用技術により安全性を確立して
教育を受けたプロの手に」
が 21世紀のベストコントロールなのです。